

優秀賞

23. ペースメーカー植え込み後の先天性完全房室ブロック患者の心筋シンチ

高杉尚志^{1),3)}, 渡辺 健¹⁾, 小野安生^{1),4)}, 坂口平馬¹⁾, 元木倫子¹⁾, 吉田葉子¹⁾, 越後茂之¹⁾, 福地一樹²⁾, 石田良雄²⁾

1) 国立循環器病センター小児科, 2) 同 放射線科, 3) 高知大学医学部小児思春期医学教室, 4) 静岡県立こども病院循環器科

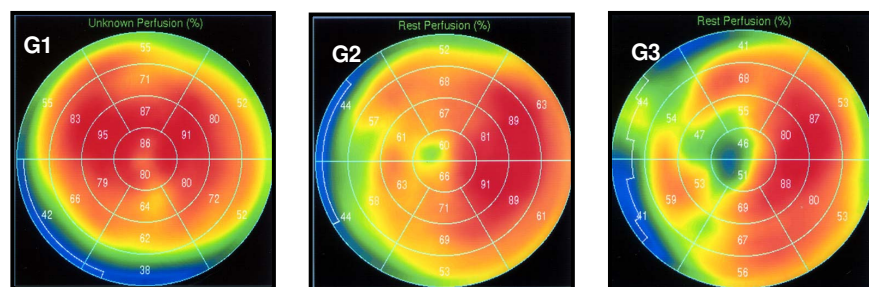
1. 背景と目的

先天性完全房室ブロック(CCAVB)の多くは、胎盤を通過した母体抗 SSA/Ro 抗体, 抗 SSB/La 抗体による胎児心筋組織の免疫学的損傷によって発症する. ペースメーカー植え込み術(PMI)を行えば、予後良好であるとされていた CCAVB の一部に、近年、拡張型心筋症(DCM)を発症することが知られるようになってきたが、その原因および PMI との関連はあきらかではない. DCM 発症機序を検討する目的で、CCA VB 患者の心筋シンチ所見について検討した.

2. 対象・方法

1995 年 1 月から 2004 年 3 月までに、国立循環器病センター小児科において、CCA VB 患者 25 例に対して、^{99m}Tc-Tetrofosmin 心筋シンチを施行し、計 30 画像を得た. これらを、G1:PMI 前 (n=11), G2:PMI 後 DCM 未発症 (n=13), G3:PMI 後 DCM 発症 (n=6) にわけて分析した. 心筋シンチの集積低下は、polar map の各セグメントの最大集積に対する % uptake で評価し、平均値 ± 標準偏差で表した. 2 群間比較は、unpaired student's t-test を用い、 $p < 0.05$ を有意とした.

3. 結果



ペースメーカー期間は、G2 に比較して、G3 で有意に短期であった.

SPECT 像の集積低下は、G2 の 11/13 例 (85%), G3 の 6/6 例

(100%) で認め、ほぼ全例が右室ペースメーカー例であった. G2 では、中隔または心尖から中隔に集積低下を認め、G3 では、左室内腔の拡大を伴い、中隔から心尖、下壁にかけて有意に広範な集積低下を認めた.

4. まとめ

右室ペースメーカーが施行されている CCA VB の小児患者の心筋シンチは、心尖と中隔の集積低下が特徴的であり、DCM 発症例では、集積低下が強く、より広範に認められた. CCA VB 患者では、右室ペースメーカーによる心室内非同期が、心尖や中隔の血流低下を来し、DCM 発症に関与している可能性がある. 集積低下や心室機能低下が認められる例は、ペースメーカー部位の変更も考慮すべきである.